



金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校

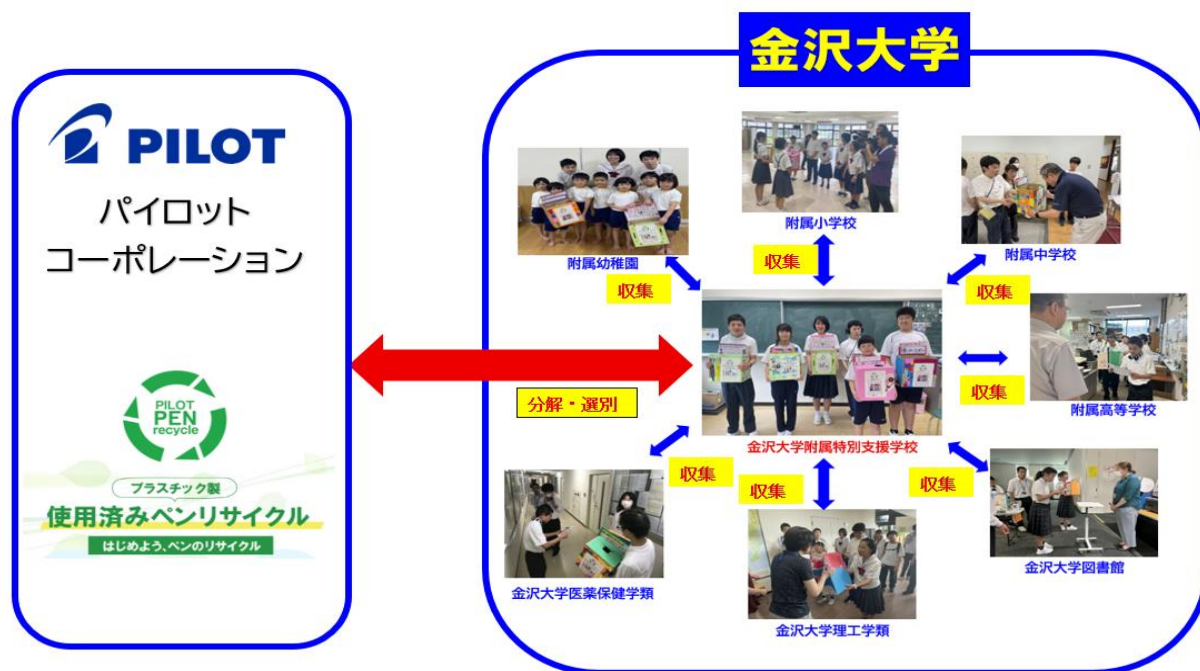


本校中学部では、これまで海洋プラスチックごみ問題について学習を進めてきました。その中で、私たちは2つの重要な事実に気づきました。

1つ目は、「多くの人が無意識のうちにゴミを捨てている」ということ。2つ目は、「ゴミを捨てることで社会にどのような影響があるのかを、十分に理解していない人が多い」ということです。

今回、中学部ではプラスチックごみに焦点をあて、「どのようにすれば削減できるのか」「どのようにすればポイ捨てをなくせるのか」について考えました。

その結果、PILOT コーポレーションの「使用済みペンリサイクルプログラム」に本校が参加させていただき、**金沢大学の全ての学類および附属学校園**に自作した使用済み文具のリサイクル回収箱を設置し、プラスチックごみ削減の必要性を自分たちの言葉で発信することにしました。金沢大学が、環境に優しい教育機関になれるよう、私たちは頑張ります！



オール金沢大学 使用済みペンリサイクルプログラム

2025年6月26日

使用済み文具 集めます

金大付特支学校生 再利用へ回収箱系列校・園に

知的障害のある子どもたちが通う金沢大付属特別支援学校（金沢市）の中学部が、身近なプラスチックごみをリサイクルしようと、不要な文具の回収箱を手作りした。25日には、系列の幼稚園から大学まで、5校・園11カ所に設置。幅広くペン類などを募り、新たな文具に生まれ変わらせる。

（高橋雪花）

同特支校の生徒は海洋ごみを減らす研究に取り組んでおり、河原や海岸でのごみ拾いや、拾ったプラスチックのかげらを用いた名札製作などをしてきた。今回、プラごみそのものの削減を目指し文具のリサイクルを考案。文具大手のパイロットコーポレーション（東京）に送り、景品として生徒がもらえる定規や市販のペンなどになる予定だ。パイロットから提供された回収箱は2箱で、同校に設置。さらに輪を広げようと、中学部1・3年の17人が今月、シャープペンシルやホワイトボードマーカーなどを集める22箱を手がけた。

箱は縦横30センチ、奥行き20センチほどの段ボール製で「使い終わっ

たペン あつめていきます!」と大きく表示した。色紙や折り紙、シールでポップに飾り付けており、2年の浦朱里さん（13）は「みんなが入れたいと思ってくれるように、できるだけカラフルにした」とこだわりを語る。生徒はこの日、バスで5校・園を巡回して箱を置いてもらった。金大付属小学校では、受け取った代表の児童が「海洋プラごみの削減に向け、皆さんのお役に立てれば」と応じた。

箱は11月中旬まで設置する。中学部2年の梶すみれさん（13）は「新しい文房具に生まれ変わるのうれしい。また大切にしたい」。3年の北川陽菜さん（14）も「また勉強に使えたら」と期待した。



児童（左2人）に回収箱を手渡す金沢大付属特別支援学校の生徒たち。金沢市平和町の金沢大付属小で

災害 詐欺 金沢 の第1 出席し 陰險所 訓練を 年度道 あり、 管内 約の 投資 10万 告。